科目名			担当教員	
教育の歴史と思想			寺下　明	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
AH1037	2	1	RorSR (講義)	1 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017 年度以前に「人間と教育」（科目コード：AH1017・AH1025、4 単位）を履修登録し、単位修得していない方もこの科目を履修登録できます。単位修得者は、科目内容が重複しているため本科目を履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

今日、大規模な教育改革が行われています。「大学入試センター試験の廃止」をはじめ、「高等学校における大幅な科目編成」や「小学校における英語の教科化」、さらには知識の再生型授業から「アクティブ・ラーニングへの転換」など、教育は戦後最大の転換期にあるといわれています。グローバル化の中で、これからの我が国や世界でどのような産業構造が形成され、どのような社会が実現されていくのか、先行きは不透明です。今日の教育をめぐる問題は、私たちの生き方を問い、未来の社会を決定づける問題です。教育のこれからのビジョンを得るには、その十分な歴史的理解なくしてはあり得ません。それゆえ、本講義では、教育の目的や思想を歴史的・社会的文脈において検討します。特に近代公教育を生み出した西洋近代社会と近代教育を根本から捉え直すことを通して、教育あるいは人間とは何かについて問い直そうとするものです。その答えは、教育の実践を根底において支えてくれるでしょう。

■到達目標

１）教育についての関心を深め、今後の学びのための基礎知識を説明することができる。
２）教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について説明できる。
３）生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について論じることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

寺下明著『教育原理　第２版』ミネルヴァ書房、2013 年（最新版でなくても可）
（最近の教科書変更時期）2013 年４月
（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

【参考図書】

テキスト章末記載の文献を参照してください。

スクーリング

▶オンデマンドのみ

■スクーリングで学んでほしいこと

教育の今日的課題を視野に入れながら、人間にとってなぜ教育は必要なのか、人間の成長・発達を生涯学習の視点から深く学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	転換期の教育	今日の日本が抱える教育の目的と課題について
2	人間の成長・発達	子どもの発達の要因について考える
3	西洋の子ども観	西洋の子ども観について学ぶ
4	日本の子ども観	日本の子ども観の特徴について学ぶ
5	日本の近代化と教育	日本の近代化に果した教育の役割について考える
6	江戸時代の教育遺産	藩校・寺子屋・塾の果たした役割について学ぶ
7	日本の戦後教育	戦後教育の変遷について考える
8	生涯学習	生涯学習の理念を中心に学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に進める。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験 100%によって評価する。

講義を基礎とした学習が進められ、学習課題が達成できたかどうかが評価の基準となる。試験課題に対する解答は、自分の意見や考察を加えることは歓迎するが、テーマをふまえた客観的な考察が前提である。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の特に 1 章、3 章、4 章、5 章を中心に目を通しておいてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	教育とは何か（1 章）	教育とは何かについて学ぶ。 キーワード：伝達、就巣性、可塑性、生理的早産、社会化、狼に育てられた子	教育とは何かについて、人間は「教育的存在」であるという視点から考えてみることが重要。
2	人間の成長・発達（2 章）	人間の成長の特徴を遺伝と環境の問題を踏まえて考える。 キーワード：タブラ・ラサ説、環境閾値説、三歳児神話	子どもの成長と発達の特徴を、とくに文化的環境や教育との関連で考えてみる。

3	脳科学からみた発達 （2章）	脳科学の成果から、教育の問題について考えてみる。 キーワード：アタッチメント、社会脳、利己的な遺伝子、文化化	社会脳説を中心に、人間は文化環境によってつくられるのかを検討してみたい。
4	子ども観と子育て①西欧の子ども観 （3章）	西欧の子ども観の変遷をたどる。 キーワード：小さな大人、精神白紙説、近代家族、子どもの誕生	歴史の中で、さまざまな子ども観をたどることによって、子どもと大人の関係について考えてみる。
5	②日本の子ども観 （3章）	日本の子ども観と子育てについて学ぶ。 キーワード：子宝思想，母性原理社会、甘え、恥の文化、七歳までは神のうち	子ども観と子育てのあり方を欧米と比較しながら、日本社会の基本構造と教育の特質を明らかにしたい。
6	教育の目的①古代•中世の教育目的 （4章）	教育の理想ないし目的が、時代や社会とともに変化し、国家や社会の事情によって異なることを概観する。 キーワード：ソフィスト、イデア、ロゴス、自由七科	古代の教育目的の根底にどのような子ども観や人間観があるのかを考えてみたい。
7	②ルネッサンス期・近代の教育 （4章）	ルネッサンスおよび近代の教育の特徴について学ぶ。 キーワード：人文主義教育、公教育、新教育	近代においてさまざまな教育改革が行われたが、その背景にあるルソーやペスタロッチ、コンドルセ、デューイの教育理論についても理解しておきたい。
8	③日本の近代教育 （4章 ）	日本の近代における教育の目的を理解する。 キーワード：学制、教育勅語、大正自由教育	「富国強兵」を国家の目標に掲げた近代日本の義務教育の制度はどのような教育観であったのか考察を加えたい。
9	④日本の戦後教育 （4章）	戦後教育の教育理念について理解する。 キーワード：アメリカ教育使節団、教育基本法	教育の目的は何か、何のための教育かを問うことは、教育によって実現される価値や意義を追求し、教育の本質を明らかにすることにもなる。
10	日本の近代化と教育①江戸時代の教育遺産 （5章）	日本が近代化に成功した要因として、近代以前における教育の普及と充実を理解しておきたい。 キーワード：寺子屋、藩校、私塾	江戸時代にはさまざまな教育の場があり、豊かな教育活動が行われていた。その中でも、庶民の教育機関であった寺子屋について、その現代的意義を学んでおきたい。
11	②儒教の伝統 （5章）	儒教が近代化の原動力になったのかを検証する。 キーワード：儒教文化圏、社会倫理	儒教をはじめ江戸時代のバラエティーに富んだ教育が、日本の近代化に貢献したことを考察したい。
12	③立身出世と学校 （5章）	学問や教育が立身出世につながるということが、以後の日本の社会の基本信念となり、学校信仰を生み出していくことを学ぶ。	日本における学校の優越性は、お上の学校の性格としてだけでなく、民衆の側から見て、実利的効用という点で、学校はその価値を認められるようになったことを理解したい。

		キーワード：札幌農学校、科挙、学歴社会、近代公教育	
13	現代教育に問われているもの① 戦後教育 （6 章）	戦後教育の流れを学習指導要領の変遷を通して学ぶ。 キーワード：スプートニク・ショック、落ちこぼれ、不登校、いじめ、学級崩壊	学習指導要領改訂の変遷をたどりながら、現代社会の縮図としての学校教育の問題点を検討する。
14	②生涯学習と教育改革 （6 章）	これからの教育をどのように構想していけばよいのかを探求する。 キーワード：学習社会、自己実現、ラーニング・トゥー・ビー	さまざまな学校教育の改革を生涯学習体系のなかに位置づけて展望したい。
15	③学校教育の課題 （6 章）	学校教育の抱える課題について考える。 キーワード：ハイパー・メリトクラシ-、隠れたカリキュラム	学校教育の課題については、教育は理想社会をめざして、現実を自ら作り変えられるような人間を育成するところに求められているという視点から考えてみたい。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	子どもの発達における「素質と環境」の問題について、考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

子どもの発達をめぐる問題は、諸科学の研究成果をもとにした人間としての「事実」に立脚することが重要です。そして、さらに重要なことは、人間は歴史的・社会的環境をもち、「意味」のある世界に生きているということです。したがって、発達をめぐる問題は、事実としての人間と、価値に関わる社会や文化の領域（広い意味での環境）を包含せざるを得ないのです。こうした視点から、子どもの発達の特徴を教育との関連で考察してください。テキスト 2 章を参考にしてください。

科目修了試験

■評価基準

1 ）問題の意図を正しく理解し、問題にそって論理的に解答がなされている。

2 ）自分なりの視点をもって、問題に取り組んでいる。

3 ）専門用語の意味などについて、正確に理解しているなどを基準に評価する。